

Ka-002

会場：C304

時間：6月25日 14:15-14:30

幌満カンラン岩体のコランダムを含む塩基性岩の成因とその重要性

Petrogenesis of corundum-bearing mafic rock from the Horoman Complex: implications for P-T history of the peridotite

森下 知晃[1], 荒井 章司[1], David H. Green,[2]

Tomoaki Morishita[1], Shoji Arai[2], David Green[3]

[1] 金沢大・理・地球, [2] オーストラリア国立大学・地球科学

[1] Earth Science, Kanazawa Univ., [2] Dept. Earth Sci., Kanazawa Univ., [3] RSES., ANU

北海道幌満カンラン岩体のコランダムを含む塩基性岩の成因を検討した。その結果、コランダムを含む鉱物組み合わせは、それが火成岩として形成された圧力条件よりも高压条件を被っている証拠であることがわかった。また、この岩石がかんらん岩に含まれていることの意義を議論する。